

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4590100162		
法人名	社会福祉法人芳生会		
事業所名	グループホームサンめいと		
所在地	宮崎県宮崎市大瀬町3190番地 (電話) 0985-41-3190		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年2月18日	評価確定日	平成21年3月30日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは秋には色とりどりのコスモスが咲き乱れる高台の静かな環境にある。介護老人福祉施設、デイサービス、ケアハウスなどに併設されたホームとして、看護、医療面での連携もできている。職員と利用者が定期的に一緒に料理やおやつ作りをしたり、地域の行事等に積極的に参加するなど、利用者の要望に柔軟に対応できているためか、生き生きと落ち着いた共同生活の様子がみられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 法人の理念を見直し、グループホーム独自の理念を職員全員で話し合っ て決め、玄関に明示している。ホームの行事写真を運営推進会議や家族に2 か月ごとに提供している。災害対策は特別養護老人ホーム協力の下、夜間 を想定した電話連絡や警備会社との訓練を実施し問題点、課題を把握して いる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 職員全員で話し合い、評価項目での反省点や気づきなど日々のケアに取 り組んでいる。また、評価については運営推進会議でも報告し、意見を 聞くなどしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員とホームの関係職 員の出席で2か月ごとに開催され、ホームの事業や状況を報告すると ともに、地域の行事を紹介してもらうなど、意見交換も充実し、地域交流 やサービスの向上に取り組むことができている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族代表が運営推進会議で意見を出されたり、家族来訪時や介護計画等 の機会あるごとに意見を聞いている。また、日常の様子や外出、外食の 様子を写真にして、家族にも金銭管理内容とともに送付し喜んでもら うなど、運営にも反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 利用者が地域活動に参加し交流することで知り合いの人と話したり、職 員も地域の行事に参加するなど、多くの機会をとらえて地元の人との交 流を拓けるように努力している。

【情報提供票より】（平成21年1月10日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人, 非常勤2人, 常勤換算6人	

（2）建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	39,000 円	その他の経費（月額）	実費 円	
敷金	有（ 円）	無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

（4）利用者の概要（平成21年1月10日現在）

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	2	要介護2	5			
要介護3	2	要介護4	0			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	87歳	最低	83歳	最高	93歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	たなか内科、増田病院、希望ヶ丘歯科医院
---------	---------------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員一人ひとりが目指しているものを出し合い、話し合って事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を日ごろのケアに心がけるよう毎月のミーティングで話し合い実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域活動に参加し交流することで知り合いの人と話したり、職員も地域の行事に参加するなど多くの機会をとらえて地元の人との交流を拓けるように努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で話し合い、評価項目での反省点や気づきなど日々のケアに取り組んでいる。また、評価については運営推進会議でも報告し、意見を聞くなどしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員の出席で2か月ごとに開催され、ホームの事業、状況報告をするとともに、地域の行事を紹介してもらうなど、意見交換も充実し地域交流やサービスの向上に取り組むことができている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村や地域包括支援センターが主催する研修や事例検討などに出席し、情報交換することでサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に話したり、日常の様子や外出、外食の写真を2か月ごとの運営推進会議にて報告し、家族にも金銭管理内容とともに送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族代表が運営推進会議で意見を出されたり、家族来訪時や介護計画等、機会あるごとに聞いたことを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は年に1名程度であり、決まった時点で、顔合わせに来てもらい徐々になじめるように配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務として新任、中堅とその人に応じた研修を受けるようにして、受講後は復命書により、職員全員に報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や研修の機会を利用し、意見交換を行ったり、他のグループホームの運営推進会議に参加したり、別なホームと交流するなど職員のスキルアップに積極的に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に見学に来てもらい、時々家族と一緒に家に泊まりに帰るなどしながら徐々になじめるように、家族の協力を得ながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	在宅時にできていたことができるように、わいわいメニューとして、月2回職員と一緒に料理やおやつ作りをしたり、洗濯、掃除も一緒に楽しみながら共同で行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々のかかわりの中で、本人、家族の意向や気づきを知り得たとき、24時間生活変化シートに具体的に記載し、引き継ぎを確実にしている。また、利用者処遇検討記録などにも記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で利用者処遇検討記録等や、気づいたことを出し合ってケアの統一を図るよう、本人、家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングで介護計画の評価を行い、期間に応じた見直しを行っている。状態に変化が生じた場合は、本人、家族等と話し合い現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時や、家族が受診に応じられない時には職員が対応している。また、利用者がお墓参りや派出所等に用事がある時にも同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に家族が掛かりつけ医の受診をしているが、内科、眼科、歯科の往診で定期的に受診している利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化、終末期のあり方について説明し、職員も終末期についての心構えなどの勉強を始めているが、具体的な話し合いはしていない。	○	利用者の状態が変化した時などを機会に、重度化した場合や終末期の対応について、具体的に本人、家族、掛かりつけ医師と話し合い全員で共有していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は食事、排泄、口腔ケアなど日常生活での言葉かけや誘導するときも優しく、丁寧に、親しみを持って接するなど、ミーティングで話し合っていることが実践されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望で、民謡、風船バレーなどの地域交流や買物に出かけたり、外食、外泊、テレビを見たり、料理、掃除なども一緒にするなど、利用者同士も穏やかにすごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	2週に1回、職員と利用者が一緒に調理をしたり、職員も同じ昼食を食しながら、さりげなく介助や言葉かけをして、準備や後片づけも一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に交代で1日おきにしているが毎日入れる状態で、希望があればいつでも入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のできること、できないことを把握し、掃除、調理、食器洗い、洗濯物たたみや、外出、地域の行事に出かけるなど、本人の能力に応じて楽しんでもらえるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	観音様参りを兼ねた散歩や、買い物、地域の行事に出かける人、全員での外食など一人ひとりの希望に沿って、戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないで、センサー音が鳴ったときは職員も一緒にさりげなく利用者に合わせ外に出るなどしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	警備会社を利用し、年2回夜間を想定した特別養護老人ホームの協力で防災訓練を行っている。詳細に記録がなされ、避難誘導の際の問題点も把握されている。	○	人家から離れている場所であるが、消防署と連携して地域住民の協力を得られるように日ごろから働きかけをしてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況はチェックシートに記録しており、同法人の栄養士が作成した献立表を基に、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのゆったりとしたソファに、食後の利用者が集まり、テレビを見たりおしゃべりしたりしている。大きなガラス戸からの陽射しが室内を暖かく明るくし、歩行訓練にもなる広々とした廊下には手すりが設置され、居心地良く過せるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンス、仏壇、写真、テレビなどが置いてあり、利用者一人ひとりの思いや家族の心遣いで、落ち着いて過せるように配慮されている。また、職員が小学生の描いた似顔絵を貼り温かみのある居室になっている。		

※  は、重点項目。